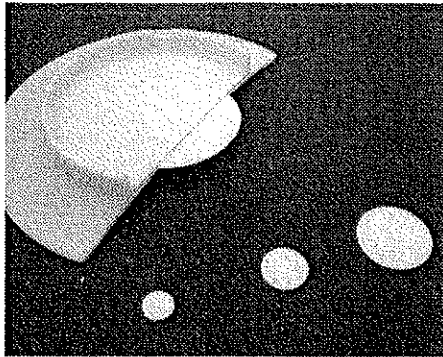


ICタグ 回転すし皿に内蔵



【横浜】KRDコーポレーション(神奈川県大和市、小松弘英社長、046・271・1500)は川崎市内の2社と共同で、回転すしで使う皿にICタグ(電子荷札)を内蔵したプラスチック製食器「icWare(アイシーウェア)」を開発した。大手回転すしチェーン店への導入を目指す。将来は企業の社員食堂での料金精算や栄養の管理、病院食向け給食用食器への応用なども視野に入れていく。初年度30万枚の販売し、3億円の売り上げを見込む。

KRD

大手チェーン店開拓

コスト、「貼付」以下に抑制

ICタグにはKRDコーポレーションが2008年に開発した「フレックステック」を使用。

ト工業(川崎市中原区、永峰大三社長、044・751・4198)、システムの開発はイツコーポレーション(同、淡路正明社長、044・948・9888)がそれぞれ担当した。

能だ。

従来、ICタグを使って食器の識別を行う場合、食器の裏側表面にICタグを張り付ける。ア

また、食器とICタグとの間にできるわずかな隙間から菌が繁殖する可能性があるが、食器に内蔵させることで衛生面の向上にもつながる。

費用も貼り付ける方法と比較して「同等もしくは安くすることができ」という。(小松社長)という。

特殊ファイバーと柔軟な耐熱素材を用いることで、折り曲げたりねじったりでき
る。食器の製造は、三光ライオンが製造している。食器の製造技術についてはライセンス供与することも可

プラスチック食器内にフレックステックICタグを内蔵する技術は現在、特許を申請している。食器の製造技術についてはライセンス供与することも可

イシーウェアは食器内部にICタグを封入することで、貼り付ける手間がかからない。ICタグが剥がれたり、欠けたりしてデータが読み取れなくなることもなくなる。